

## お話スキルアップ講座（中級編）

2007. 10

### 1. 本の読み聞かせ

本の楽しさを子どもたちに伝えること

文字が読めることと本が読めることは違う。

本を読むと言うことは、本に書かれている世界に入ることができるということ。

### 2. 読み聞かせは

読み手：読み手もその時に一冊読める。

声に出して読むことで、言葉の楽しさ、リズムの面白さ、響きの美しさを知ることができ、深く読める。

子どもに読んであげることで、子どもたちの側から感動が伝わってくる喜びを体験できる。

聞き手：自分で読んでいたときには知ることができなかったものを受け取る。

人生経験豊かな大人の人に読んでもらうことで、より豊かに作品を味わうことができる。

読んでくれる大人の心をもらえる。

友だちの感動が伝わる。

### 3・絵本とは

子どもに読ませる本・・・だけでなく、大人が子どもに読んであげる本。

絵本体験は、子どもにとっての人生経験。

絵本時代は、心を育てる時代。

優れた絵本は、子どもたちのものを見る目を養う。

### 4. 読み聞かせの実践

選書；一番大切・一番難しい

良い絵本；絵本の描かれた世界の中に、自然に入り込むことができ、存分に楽しめる本。（主人公になりきる）

読み終えた後に深い感動を残し、子どもの心を豊かに育んでくれる本。

20年くらい経ってる・ロングベストセラー

選書ポイント；読み手が、大好きな本。愛している本。

ストーリーやテーマがわかりやすいか。おもしろいか。

リズムがある美しい日本語で、繰り返しがうまく生かされているか。

いきいきとした魅力ある絵か。

ストーリーと絵が調和しているか。

本づくりの細部まで丁寧か。

昔話は正しい再話か。お話にあった絵か。

#### 集団で行う注意

後ろまで見える本。

季節や行事にあった本。

絵と文のバランス。

自分にあった本。子どもにあった本。

たくさん読む。読みつがれている本。

専門の司書に聞く。

勉強会に参加。ブックリスト・書評の参考。

#### 読む

下読み。

安定した持ち方。

開き癖

めくり方、読む速度。

よくとおる声で。

ゆっくりと、心をこめて、自然に読む。

余韻を大切に。

聞き手に本の表紙を見せた時から、最後のページを閉じて裏表紙、表紙を見せ終わるまで、読み手自身がお話の世界から抜け出さないように、心をこめて読む。

#### 5. まとめ

ボランティアの方は、大事な一冊を届ける責任がある。

必ず、勉強会に参加を。

担任の先生と充分意思疎通をはかって。

先生は、本を読んでもらうときは、子どもと一緒に聞き手になれるチャンス。できるだけ、子どもと一緒に聞き手になり感動をともに味わうように。

読んだ後に、感想を求めない。その子なりの感動・感じ方を大切にしていける。